

平成28年度 第1回山北町総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 平成28年11月24日(木)
開会：11時00分 閉会：11時40分
- 2 開催場所 山北町役場401会議室
- 3 出席者(敬称略)
 - (1) 委員 6名
山北町長 湯川 裕司
山北町教育委員会教育長 石田 浩二
山北町教育委員会教育長職務代理者 岡部 達也
山北町教育委員会委員 瀬戸 安美
山北町教育委員会委員 瀬戸 陽子
山北町教育委員会委員 野地 泰次
 - (2) 事務局 2名
参事兼企画政策課長 杉山 浩通
企画政策課副主幹 平野 泰輔
- 4 傍聴者 0名
- 5 会議概要
 - 1 開会 参事兼企画政策課長
 - 2 町長あいさつ 湯川町長
 - 3 教育長あいさつ 石田教育長

4 議 題

(1) 山北町総合教育会議設置要綱の一部改正について

湯川町長

それでは、議題（1）山北町総合教育会議設置要綱の一部改正について、事務局より説明をお願いします。

事務局

資料1により説明。

湯川町長

ただいま事務局から、山北町総合教育会議設置要綱の一部改正について説明がありましたが、この件に関しましてご意見、ご質問がありましたら発言をお願いします。

ないようでしたら、山北町総合教育会議設置要綱の一部改正について、承認するという事によろしいでしょうか。

全委員

異議なし

湯川町長

ありがとうございます。山北町総合教育会議設置要綱の一部改正について、承認することといたします。

(2) 山北町教育大綱の見直しについて

湯川町長

次に、議題（2）山北町教育大綱の見直しについて、事務局より説明をお願いします。

事務局

資料2により説明。

湯川町長

ただいま事務局から、山北町教育大綱の見直しについて説明がありましたが、この件に関しましてご意見、ご質問がありましたら発言をお願いします。

ないようでしたら、山北町教育大綱の見直しについて、承認するという事によろしいでしょうか。

全委員

異議なし

湯川町長

ありがとうございます。山北町教育大綱の見直しについて、承認することといたします。

(3) 山北町教育大綱における取組み状況及び今後の方針について

湯川町長

次に議題(3) 山北町教育大綱における取組み状況及び今後の方針についてに移らせていただきます。

山北町教育大綱については、本年2月に策定したところであり、町では「第5次総合計画」との整合を図ったうえで、3月に「山北町人口ビジョン・総合戦略」を策定し、地方創生に向けた取組みを推進しております。

その中の一つに、「山北町の若い世代の結婚、出産、子育ての希望を叶える」という基本項目がございまして、認定こども園の開設や、放課後子ども教室、放課後児童クラブの充実を掲げ、子育て支援のさらなる充実に努めているところでございます。

今後はより一層、教育委員会との連携を図りながら、教育環境の向上に取り組んで参りたいと考えております。

本日は、委員の皆様からも、色々と忌憚のないご意見をお伺いできればと考えておりますが、教育長いかがでしょうか。

石田教育長

最初に、教育大綱の取組みについて、最近の状況を踏まえた中で、お話しさせていたいただきたいと思えます。

1点目は、特に大きな話題として、次期学習指導要領についてです。

今年、審議のまとめが出され、年度内には中央教育審議会として答申がされる予定ですが、特に小・中学校で道徳が教科化され、さらには小学校中学年からの英語活動、高学年の英語の教科化が示されているところであります。それに伴い、小学校の授業時数が、中学年から今より35時間増加するというような中で、教育課程をどのように編成していくのか、大きな課題となっています。さらには「プログラミング教育」「アクティブ・ラーニング」「チーム学校」「カリキュラム・マネジメント」などの充実のためには、人的支援や環境整備による学力向上を始めとする様々な教育施策が必要となってくると思えます。

2点目は、幼児教育についてですが、自立心や規範意識の芽生え、思いやりなど、5歳児までに育てて欲しい10項目が次期学習指導要領に取り上げられています。本町としては、平成29年度から幼稚園、保育園に加えて、認定こども園が開設されるという中で、0歳児から5歳児までの共通カリキュラムが策定されました。そのような中では、各園で共通的な指導を実施することが大事であり、その手立てをどのようにしていくか検討が必要であると思います。

3点目は、山北町生涯学習推進プランの見直しについてです。

平成20年度に策定し、計画期間が10年間となりますので、平成30年度からの改訂版を平成29年度中に策定しなければならない状況にあります。

「第5次総合計画」あるいは「教育大綱」に基づく施策を進めていくという必要があるため、2年前、子どもの放課後の居場所づくりについて社会教育会議に提言し、今年度末には答申をしていただく予定となっております。

以上3点が、教育大綱を踏まえての取組みと、今後の課題でございます。

湯川町長

ありがとうございます。私も、学力向上や幼児教育、子どもの放課後の居場所づくりというものは非常に大事なことだと考えております。また、報道などで話題になっているいじめのことを考えますと、教育課題について、もう少しスピードを上げて対応していかなければならないと考えております。

そのようなことも含めて、ご意見があればと思いますがいかがでしょうか。

野地委員

学習指導要領の改訂に伴う人的支援については、石田教育長からもご発言がありました。特に小学校では、コミュニケーション能力の育成が叫ばれている中で、子どもと保護者の関わり方が崩れてきているように感じています。その中で、少人数や個別対応を多用せざるを得ない状況が、現場にはあると思います。コミュニケーション能力の育成は、大勢の中で育てるという認識を持っている方が多いかもしれませんが、保護者との関係も非常に厳しい状況にある子どもが増えてきていることを踏まえると、人的支援というのは非常に大きな学力向上のポイントの一つになるものと考えます。

私は3月まで学校で勤務をしていましたが、山北町の子ども達のことを考えると、今後、そのような取組みをしていただきたいと考えております。

湯川町長

ありがとうございます。学力向上はそう簡単にできるものではないと考えますので、保護者のご理解を得ながら進めていかなければならないと考えます。

瀬戸陽子委員

人的支援については、学力が少し遅れた子どもに対して個別指導を行うといった、学習支援の面ばかりを考えておりましたが、野地委員のご発言のとおり、複雑な家庭環境にいる子どももいる中で、コミュニケーションの育成に対する需要がますます増えてくると思います。

瀬戸安美委員

学校の統合に伴い、清水・三保地域から通う子ども達がいると思いますが、私は、子ども達にこれからもずっと清水・三保地域を大事にしていきたいと考えています。子どもの数が減少しても、地域や保護者の方々の願いもあり、三保小学校は存続しています。色々な思いの中で、学校を統合したことを忘れないためにも、また、清水・三保地域から一生懸命通学している子ども達を理解する意味でも、交流事業については途切れることなく継続して欲しいと思います。

石田教育長

交流事業とは、小規模校が大規模校へ出向いて交流するのが一般的な考えとしてある中で、先日学校訪問を行った際に、川村小学校の子ども達が三保小学校へ行って交流する視点が必要ではないかと意見交換を行ったところです。

また、三保幼稚園は今年度4歳児のみの在園であったため、年度途中から山北幼稚園や岸幼稚園との交流を実施しましたが、このような交流が、最終的に学力向上の面に結びついてくるのではないかと思います。

湯川町長

小学校からではなく、幼児教育から交流事業を行うことで、少しでも学力向上につながってくれば良いのではないかと思います。

私がひとつ心配しているのは、開設する認定こども園は0～2歳児と3～5歳児で分けていますが、現在の向原保育園では0～5歳児の中で交流があります。2歳児と3歳児で分かれることで、その交流部分をどう補完するのか、幼

児教育の中で取組んでいきたいと思ひます。

岡部委員

今年、川村小学校の子ども達が旧清水小学校へ遠足に行きました。清水小学校に通っていた子ども達は、清水地区のことをよく分かっていると思ひますが、自分の住んでいた地区について段々分からなくなってしまうのではないかと危惧しておりますので、遠足に行ったことはとても良いことだと感じました。また、学校訪問の際には、小学校も中学校も大変落ち着いており、素晴らしい学校になりつつあると感じたところではす。

また、野地委員のご発言にもありましたが、新しい学習指導要領の中で、平成32年までに外部人材の活用による人的支援など、指導者の確保について謳われておりますので、来年度くらいから検討を進めていかないと難しいと思ひますが、町ではどのように考へているのでしょうか。

参事兼企画政
策課長

子ども達のコミュニケーション能力の育成に対して、どのような形で人材支援ができるのか、指導的な教員の部分なのか、それとも外部の人材なのか、どの部分を手厚くしていくのかを、教育委員会の意見も聞きながら、また、財政担当課とも協議した中で、考へ方を整理していく必要があると思ひます。教育委員会の考へ方を基本として、この総合教育会議で議論していく方向になるのではないかと考へます。

瀬戸陽子委員

次期学習指導要領の英語教育分野をどのようにしていくのかは、大きな課題だと思ひます。私達の世代が、中学校から英語を学び始めて身にならなかつたり、子どもを週1回英語教室に通わせても身にならなかつた経験がある中で、次期学習指導要領が策定される訳ですが、やはり都市部の子どもとは違い、山北の子どもは、なかなか外国人と触れ合う機会がありません。外国語の最初はコミュニケーションだと思ひますので、その部分が抜けてしまう中で、どのように成果を上げていけば良いのかは大きな課題であると思ひます。

なるべく早い段階から英語教育を始めさせたいという保護者の意向がある中で、今後ますます学習塾に通う子ども達が増えていくと思ひますし、山北中学

校では、夏休みを利用して1ヶ月間ホームステイする生徒が年々増えてきています。学習塾に通わない子ども達と差が開いてしまわないよう、また都市部の子ども達と比べて遅れないよう、施策を講じるべきだと思います。

石田教育長

本町にはALTを2名配置していただいております、他町と比べるとALTの支援は充実していると思います。ALTは小・中学校に配置されていますが、学校が統合されたことで授業時数が確保され、幼稚園や保育園へも派遣していますが、小学校の英語が週1時間、計35時間増えるということで、どのように実施していくのが検討課題となっています。

例えば夏休みの期間を短くして、その分を授業時数に充てることや、土曜日に授業を実施する、あるいは「モジュール学習」といって、毎日15分間ずつ授業を行い、トータルで35時間を確保することなどが考えられます。

平成30年度から先行実施が始まりますので、どのような方法が良いのか、学校と協議しながら、整理して行かなければならないと考えております。

岡部委員

ICT環境の整備について、山北町の現状を見ますと徐々に整備されてきていると感じますが、まだ不十分な部分もあると思いますので、ぜひ整備を進めていただきたいと思います。

湯川町長

タブレットといった様々な機器を使用することが当たり前の時代になってきている中で、整備を進めていくことは当然必要であると考えます。しかしながら、そのような中に情報が溢れていますので、選択の方法に若干課題があるのではないかと思います。エアコンも全教室に設置できる予定ですが、そのような家庭の中に当たり前のようにある環境は、今の子ども達にとって必要な条件だと思います。

昨日、本町に移住を希望されている方に、実際に本町へ定住された方の暮らしぶりを紹介する「やまきたで暮らしてみようツアー」という交流会を開催したのですが、一番良かったと感じたのは、昔から町内に住んでいるとなかなか気づきにくい、移住された方の視点で本町の良い部分の話を聞いたことです。

将来的には、実際に本町に移住された方や、町内に進出された企業の方を講師としてお招きし、本町へ移られたきっかけや、実際に本町へ移ってきて感じたことなどを、子ども達に聞かせてあげたいと個人的には考えております。

結果、自分達の将来が、何も東京や横浜といった町外に出ていくばかりではないことが、少しは理解していただけるのではないかと考えております。

それでは、他に意見がなければ、議題3について、これで終了とさせていただきたいと思えます。

(4) その他

湯川町長

次に、議題(4) その他について、事務局何かありますでしょうか。

事務局

特にございません。

湯川町長

それでは本日の会議の議題はすべて終了となりましたので、進行の方を事務局にお返しします。

5 その他

(事務局)

事務局から1点事務連絡をさせていただきます。

次回の総合教育会議の開催は2月中下旬を予定しております。詳細については教育委員会と調整し、ご連絡させていただきますのでよろしくお願いいたします。

6 閉会 参事兼企画政策課長

以上